

一般演題

アトピー性皮膚炎1

座長：秀 道広（広島大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学）

287. 脂肪酸カルシウムおよびマグネシウム塩のアジュバント効果によるIgE産生増強作用の解析

高井政貴¹⁾ 淀井淳司^{2,3)} 孫 安生²⁾ 山田 明⁴⁾ 西山純子⁴⁾ 芹口慶久⁵⁾
(株)三浦研究所¹⁾ 京都大学ウイルス研究所²⁾ (独)産業技術総合研究所³⁾ レ
ドックス・バイオサイエンス(株)⁴⁾ 三浦工業(株)⁵⁾

【目的】水中の硬度成分であるCa, Mgイオンと石けん（脂肪酸Na）により生じる不溶性の脂肪酸金属塩は、生活の水周り環境に残留しカビ類を生着させやすく、アレルギー疾患への影響が懸念されるが、硬度成分を含まない軟水の使用で脂肪酸金属塩の形成は抑制される。今回我々は脂肪酸CaおよびMg塩のアジュバント効果についてマウスの抗体産生系で検討した。【方法】ラウリン酸, オレイン酸, ステアリン酸のCa, Mg塩の単体または混合物をDNP-OVAと共に8週令雌性BALB/cマウスの腹腔内に投与し, 2, 3週間後に血清中の抗DNP-IgG1, 抗DNP-IgG2a, 抗DNP-IgEおよび全IgEの濃度をELISA法により測定した。【結果と考察】脂肪酸CaおよびMg塩には、従来からIgE抗体産生アジュバントとして用いられてきた水酸化アルミニウムゲルと同程度のIgG1, IgE抗体および全IgE産生増強効果が認められた。一方, IgG2a産生増強効果は著しく低いことが確認された。以上の結果より脂肪酸金属塩いわゆる金属石けんがTh2支配型の抗体産生に対してアジュバント作用を示し, 軟水の使用が皮膚アレルギーの緩和に有用であることが示唆された。

第16回日本アレルギー学会総会 2004年5月開催

JSA 社団法人日本アレルギー学会
JAPANESE SOCIETY OF ALLERGOLOGY

Copyright © 社団法人日本アレルギー学会 All rights reserved.